

# 万華鏡

甲府商業高校 図書室  
令和2年7月  
NO. 3

朝読書が始まり、1ヶ月がたちました。みなさんの様子から真剣に取り組んでいることが伝わってきます。図書室では、これからもみなさんの読書意欲を後押しできるような良書を揃えていきたいと考えています。また、リクエストにも応えていきます。夏休み中も図書室は開館していますので、開館日・開館時間などをご確認ください。

## \* 夏休み図書館開館日 \*

8月 (色つきの日は閉館日 予定は変更することもあります。)

日	月	火	水	木	金	土
						8/1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	始業式				—

\*開館時間は9時30分～12時までとなります\*

## ★夏休み特別貸出実施!

貸出開始：7月15日(水)～  
貸出冊数：1人5冊  
返却期限：8月28日(金)



66回青少年読書感想文全国コンクール  
課題図書が届きました。  
夏休みの読書の参考にしてください。



『廉太郎ノオト』 谷津矢車/著  
『フラミンゴボーイ』 マイケル・モーパーゴ/著  
『キャパとゲルタ』 マーク・アロンソン、マリナ・ブドーズ/著



## 新着本紹介

『廉太郎ノオト』 谷津矢車/著 中央公論新社  
書籍紹介：頭のなかに、いつも鳴り響いている音がある。廉太郎は東京音楽学校で才能を開花させ、新しい時代の音楽を夢みるが…。歴史小説の俊英が描く、夭折の天才音楽家・瀧廉太郎の青春物語。

『フラミンゴボーイ』 マイケル・モーパーゴ/著 小学館  
書籍紹介：ナチスが侵攻してきたフランスで、何が起きたのか。フランスの南部、フラミンゴの生息地カマルグを舞台にした、フラミンゴと話ができる不思議な力を持つ少年とロマの少女の切ないけれど優しい物語。

『キャパとゲルタ』 マーク・アロンソン、マリナ・ブドーズ/著 あすなろ書房  
書籍紹介：激動の1930年代、スペイン内戦を世界に伝えた2人のカメラマン、ロバート・キャパとゲルダ・タロー。夢と理想に燃え、カメラを武器に革命に身を投じた、若き2人の青春の物語。

『猫を棄てる』 村上春樹/著 文藝春秋  
書籍紹介：時が忘れさせるものがあり、そして時が呼び起こすものがある。中国での戦争経験を持つ父親の記憶を引き継いだ作家が父子の歴史と向き合う。初めて自らのルーツを綴ったノンフィクション。

『その犬の名を誰も知らない』 嘉悦洋/著 小学館集英社プロダクション  
書籍紹介：1968年2月、南極。日本南極観測隊・昭和基地近くで、一頭のカラフト犬の遺体が発見された。この情報は一般には知らされず、半世紀たった現在も封印されている。なぜ、これまでその存在が明らかにされなかったのか？ はたして、犬の正体は？ あのタロジロの奇跡から60年、第一次南極越冬隊の「犬係」で、タロジロとの再会を果たした唯一の隊員である北村泰一氏が、謎多き“第三の犬”について語り始める……。

『図書館奇譚』 村上春樹/著 新潮社  
『ホームドアから離れてください』 北川樹/著 幻冬舎  
『本屋を守れ』 藤原正彦/著 PHP 研究所  
『ドリルを売るには穴を売れ』 佐藤義典/著 青春出版  
『すごい工場』 出口弘規/著 あさ出版  
『科学的とはどういう意味か』 森博嗣/著 幻冬舎  
『手のひらの京』 綿矢りさ/著 新潮社  
『14歳からの政治入門』 池上彰/著 マガジンハウス  
『クスノキの番人』 東野圭吾/著 実業之日本社  
『思い出の修理工場』 石井朋彦/著 サンマーク出版  
『約束された移動』 小川洋子/著 河出書房新社  
『アーモンド』 ソン・ウォンビン/著 祥伝社  
『サル化する世界』 内田樹/著 文藝春秋  
『流人道中記上・下』 浅田次郎/著 中央公論新社  
『家族の幸せ』の経済学』 山口慎太郎/著 光文社  
『三兄弟の僕らは』 小路幸也/著 PHP 研究所

☆この夏休みに新しい本にもチャレンジしてみてください。